



最上エコポリスの実現
= 豊かな自然 輝くもがみ =

小国川だより

最上小国川治水対策について、お知らせします。

小さなダム・大きな仕事 最上小国川ダム

第22号

平成22年9月7日発行

山形県 最上総合支庁
建設部 河川砂防課

第6回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました

7月22日(木)午後2時から、最上広域交流センター「ゆめりあ」において、第6回最上小国川流域環境保全協議会を開催しました。

今回の協議会には12名の委員の方にご出席いただき、主に「動植物重要種の環境保全方法」、「ダム供用時の影響の検討」などについてご検討いただきました。

協議内容は、下記のとおりです。

【協議内容】

- 1) 第5回協議会における指導事項と対応
- 2) 早春期の環境調査結果
- 3) 動植物重要種の環境保全方法
- 4) ダム供用時の影響の検討
- 5) 今年度の環境調査予定



今回の22号では、【協議内容】のうち、1) 第5回協議会における指導事項と対応、2) 早春期の環境調査結果について報告します。

次号以降で、ダム供用時の影響の検討やアユの専門家のご意見を紹介していきます。

環境保全協議会は最上小国川の豊かな環境を守るための方策を検討します

1) 第5回(前回)協議会における指導事項と対応

【主な指導事項】

- ① クマタカAペアの営巣は毎回変わっているため、営巣場所によっては保全対策の必要性、方法を検討する必要がある。
- ② 珪藻と藍藻の一般的生態の違いに留意して検討・考察する必要がある。
- ③ ヒメギフチョウは継続調査を実施してほしい。マグソクワガタは湛水域外での生息が重要。
- ④ ワタナベカシハは情報不足であるため、他の種と同レベルの配慮とする必要性に疑問がある。

【対応】

- ➡ ① 今後も引き続き調査を継続する。
- ➡ ② 今後も検討していく。
- ➡ ③ 今後も引き続き調査を継続する。
- ➡ ④ 今後も検討していく。

2) 早春期(2月～4月)の環境調査状況について - 1

猛禽類(もうきんるい)の調査について

前回の第5回協議会では、3月までの調査結果を報告したため、今回は、4月に行った調査結果を報告しました。

【クマタカ】

- ① 雄がダムサイト近くの谷に向かう行動を確認。
⇒ 営巣の可能性が有る。
- ② 若鳥によるテリトリーへの干渉が見られた。
⇒ 営巣の可能性は低い。

①、②は判断が異なる内容ですが、営巣の正否を確認するため、今後も継続して調査を行っていきます。

【オオタカ】

例年の繁殖地付近で、雌雄の行動や同時飛翔が確認され、繁殖の可能性が示唆されました。

【サシバ】

4月になって観察例が多くなり、毎年営巣しているスギ林で営巣の可能性があります。

●専門家の意見

【クマタカ】

4月までの調査結果では、繁殖を失敗している可能性が否定できない。6月、7月調査結果を確認する。

藻類(そうるい)の調査について

藻類の調査については、早春期の調査を行っていなかったため、2月、4月の調査結果を報告しました。

その結果、夏の間は藍藻類が優占するが、秋・冬季間は珪藻類が優占するようになること、2月、4月はアユのはみあとが見られなかったこと、等が確認されました。

●専門家の意見

① 藻類調査結果について、データが蓄積されてきている。データの過不足について確認し、どのように環境影響評価の検討を行うのか、とりまとめを行う段階ではないか。

② 今後、年間を通して実施する調査結果も踏まえて、とりまとめをしてほしい。特に、水温との関係に着目するといいいのではないか。

【オオタカ】

3月にいなかったのは餌の小鳥がいる場所に移動したため。4月から営巣の可能性がある。

【サシバ】

今までも営巣のある場所で見られたことから、営巣の可能性がある。

2) 早春期の環境調査状況について - 2

昆虫類の調査について

ヒメギフチョウ、マグソクワガタの現地調査結果を報告しました。

その結果、ヒメギフチョウについては、昨年同様、食草や吸蜜植物の生育を広い範囲で確認したものの、ヒメギフチョウを確認することはできませんでした。

マグソクワガタについては、ダム湛水域と、上流域で確認されました。

●専門家の意見

- ①ヒメギフチョウは、既往調査および今回の調査で確認されていないことから、当該地域には生息していないと良いだろう。
- ②マグソクワガタは、試験湛水時には一時的に水が貯まる区域の個体が影響を受けるが、試験湛水後に河川環境が戻れば上流域の個体が移動してきて生息するだろう。

(環境保全協議会の内容については下記ホームページアドレスをご覧ください)

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/mogami/314074/kannkyou.html>

融雪期・しろかき期の濁水調査

専門家のご意見を基に、大雨洪水時(出水時)以外に濁りが出ると予測される融雪期としろかき期の濁水について、現地調査を行いました。

その結果、融雪期・しろかき期ともに出水時のような著しい濁りは確認されませんでした。



確認された
「マグソクワガタ」

最上小国川流域の治水と活性化を考える懇談会について

環境・観光・農水・防災の4部会を開催しました

6月23日(水)、24日(木)、28日(月)及び30日(水)に「第2回環境・防災・観光・農林水産の4部会」を開催しました。

今回は、部会毎にアユパーク、赤倉温泉、ダムサイト等の現地状況を確認し、その後、山形市内で意見交換を行いました。

各部会の意見の一部を下記に示します。

【環境】

- ①直上流に砂防ダムがあるため、遡上魚類への影響はほとんどない。
- ②小国川とその周辺の丘陵地を含め、環境を楽しむハイキングや、キャンプ地を整備したらいかがか。

【防災】

- ①最上町も高齢化が進み、地域の消防や水防の活動で支障は出ないのか。
- ②赤倉地区の住民の安全安心、これを一番に進めなければならない。

【観光】

- ①赤倉温泉の魅力は川で、川の両岸に旅館が並んでいて、川に下りられる場所があることは、仙台とか都会に住む人からすれば大変な魅力である。また、温泉があることは、やはり大きな交流資源になる。

【農林水産】

- ①アユの放流、養殖を強化しつつ、加工も含めてできないか。

- ②適時、森林に人の手を入れ、人間で言うならば健全な体の状態に保っていくのが非常に重要なことで、穴あきダムとともに実施する事が重要と考える。

各部会の具体的な内容は、県のホームページでお知らせする予定です。



現地調査；赤倉温泉外



会議；山形市「自治会館」外

第2回懇談会を開催しました

開催日時 平成22年8月23日(月)
13:30~15:30

場 所 山形県庁 2階 講堂
議 事

- ①第1回懇談会・部会における委員の発言要旨
- ②第2回環境・防災・観光・農林水産部会の結果

- ③国の有識者会議の最新情報と最上小国川ダムの検証検討状況について
- ④委員による意見交換

具体的な内容は、次号以降の「小国川だより」と県のホームページでお知らせする予定です。

発行：山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室 佐藤・後藤
〒996-0002
山形県新庄市金沢字大道上 2034
お問合せ先 電話 0233-29-1407
Email - 【前画面を参考にしてください】

バックナンバーは県HPからダウンロードできます。
アドレスは下記のとおりです。

http://www.pref.yamagata.jp/regional/mogami_bo/news/news/7314074ogunigawa_news.html